

■ 学校の共通目標

授業作り	重点	前時のふりかえりや学習したことをもとに解決の見通しや自分の考えをもたせ、学び合いを通して思考力・判断力・表現力を育てる問題解決型の授業づくりを行う。	中間評価		最終評価
		校内で共通した授業内掲示物を使い、言語や規則を守る環境を整え、タブレット端末を中心としたICT機器を活用することで実物や授業の流れを視覚的に学べるようにする。			
環境作り					

■ 学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析 (10月)	課題 (10月)	改善のための取組 (10月)	最終評価 (2月)	
1	国語					
	算数					
学年	教科	学習状況の分析 (4月)	課題 (4月)	改善のための取組 (4月)	中間評価・追加する取組 (10月)	最終評価 (2月)
2	国語	<p>学 大体の場面の様子を読み取ったり、登場人物の心情を読み取ったりする時に、叙述に即して読む力が十分に身に付いていない状況がある。</p> <p>学 漢字の書き取りでは丁寧に書く習慣が十分に付いていない状況があった。「とめ・はね・はらい」を重点的に指導した結果、丁寧に書くことが身に付きつつある。</p> <p>学 語彙力、書字などについては、個人差がある。助詞の「は」「へ」、拗音などを正しく書く力が十分に身に付いていない状況がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 書かれていることを正しく読み取り、大体の内容を理解することに課題があるため、指導が必要である。 文字を書き順通りに、字形を整えて丁寧に書く習慣が身に付くよう引き続き指導する必要がある。 言葉の意味や漢字について正しく理解できるよう、助詞の「は」「へ」、拗音などを正しく書けるように指導する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 会話文や登場人物の行動から気持ちを読み取ったり、文章の構成を考えたりすることによって読む力を付ける。 新出漢字の指導の際、正しく書くポイントをおさえる。タブレット端末を活用し、書き順の練習などを行う。家庭学習を継続的に行う。 言葉の意味や漢字の成り立ちについて、問い返しをしながら、その意味を友達同士で共有する。また、見直しの視点を提示して文を読み返すことで、助詞の「は」「へ」、拗音などを正しく書けるようにしていく。 		
	算数	<p>学 既習内容の理解に個人差がある。特に、計算力や文章問題において個人差が大きい。</p> <p>学 自分の考えを伝えることに積極的な児童が多い。一方で、自分の考えと友達の考えの共通点・相違点を考える力が十分に身に付いていない状況がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な計算問題には取り組むが、解き方を考えたり、計算の工夫をしたりできるように指導する必要がある。 友達の考えを聞く際に、何に気を付けて聞けばよいかを考えて聞く力を伸ばしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な計算問題を日々の宿題とし、繰り返し反復練習する。タブレット端末も活用し、習熟を図る。 自分の考えを説明したり、友達の意見を聞いたり、共有したりする機会をもつ。その際、聞く視点を提示し、共通点・相違点、数学的な考え方のよさに気付けるようにする。 		
3	国語	<p>調 新宿区学力定着度調査の結果では、「話す」「書く」「読む」の領域では、正答率がそれぞれ9, 2, 7ポイント全国平均を上回っているが、漢字の書きの正答率は全国平均を6ポイント下回っている。</p> <p>学 漢字の小テストや日常の書字を見ると、習っていても書けない漢字があったり、誤りがあったりし、十分に身に付いていない状況がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 話を聞き取る力に個人差があるので、全体として、正しく聞き取る力を伸ばしていく必要がある。 既習の漢字を正確に書き取る力を伸ばす必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 全校朝会での校長先生の話の中心を書かせたり、国語の学習での話し合い活動で相手に伝えたい中心を確認したりする活動を意図的に取り入れる。 書写の毛筆や漢字ドリルの学習で、なぞり書きを3回以上取り組ませ、定着を図る。 		
	算数	<p>調 新宿区学力調査の結果では、基礎・活用ともに全国平均より上回っており、概ね良好といえる。</p> <p>学 計算力や既習事項を適切に活用する力に個人差がある。</p> <p>学 自分の考え積極的に発表できる児童は多いが、友達の考えを聞き、自分の考えと比べたり、自分の考えに取り入れようとしたりしようとする意識が低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 計算のきまりや図形の性質から工夫して問題を解決していく力を身に付けていく必要がある。 基本的な計算の仕組みから、発展的な問題を早期に解決していく力を身に付けていく必要がある。 友達の考えを自分事として聞こうとする態度を養っていくようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習のつながりを意識させ、毎時間振り返りの時間を確保する。 授業初めの時間を使って百ます計算に取り組ませる。 それぞれの児童の考えを共有し、自分の考えを深められるような時間を意図的に設定するようにする。 		
4	国語	<p>調 新宿区学力定着度調査の結果では、基礎・活用ともに区平均と全国平均よりも上回っていることから、概ね良好と言える。特に、漢字の読み書きと話す聞くに関する内容は正答率が90%を超えていることから、確実に力が身に付いているといえる。ただし、メモをもとに文章を書くことは、区平均と全国平均は上回っているものの、正答率が54%であった。</p> <p>学 読書が好きな児童もいるが、自分で本を選んで読むことができない児童もいる。読書量にばらつきがある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 主語述語修飾語を使った分かりやすく文章を書く力を一層身に付けていく必要がある。 読書量や読書の幅を広げていけるように環境を整え、文章の構成や内容を的確にとらえて講釈したりする力をつけていくようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科において、自分の考えや学習のふりかえりをする際には、短い文章で簡潔書きするのではなく、主語述語修飾語を使った分かりやすく文章を書く習慣を身に付けさせる。 物語文や説明文を学習する時には関連図書を教室に置いて、興味のある本をすぐに手に取れるような学習環境をつくっていく。 		
	算数	<p>調 新宿区学力定着度調査の結果では、基礎・活用ともに全国平均よりも上回っているものの区平均よりも下回る結果となった。特に加減の筆算が定着できるように指導する必要がある。課題としていた、正確に作図する力においては、指導を積み重ねていく中で、コンパスや定規の使い方等の技能面を伸ばすことができた。</p> <p>学 文章問題において分かっていることと求めていることを図に表す力に個人差がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 速く正確に解くことができるように四則計算の定着を図る必要がある。 2量の関係を数直線に表す力を身に付ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の始まりには四則計算の問題を解く時間を適宜設定して、計算問題を解く機会を増やしていく。 文章問題においては、図、式、答えの3つを書いて求めることができるように適宜指導していく。 		

5	国語	<p>調新宿区学力定着度調査の結果では、目標値をやや上回っており全体としては概ね良好な状況である。「書くこと」については、昨年度、目標値を下回る結果となった。</p> <p>学ワークテストの状況を見ると漢字の読み書きの力や文章を書く力に個人差が大きい状況がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 問われている内容をしっかりと理解し、記述する力を身に付けさせる必要がある。 50字、200字と必要な文字数で書くことを苦手としており、習熟の必要性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 問いと正対して、自分なりの答えを書くことができるよう、日々の授業で意識をさせる。ノートやタブレット端末での解答を随時チェックし児童の理解の状況を細やかに把握する。 書く力を伸ばすために、日常の出来事を文章化することや、自分の考えをまとめて文章に書く時間を授業の中で設定していく。 		
	算数	<p>調新宿区学力定着度調査の結果では、目標値をやや上回っており全体としては概ね良好な状況である。「億や兆、概数」の分野は目標値を下回った。</p> <p>学計算に時間がかかったり間違いが多く見られたりする児童が一定程度存在する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの児童の苦手としているところが異なり、学習の理解度も二極化しているため、まずは出来るところと出来ないところを把握していく必要がある。 習熟の時間に繰り返し問題を解き、苦手となる前に、問題を解けるようにする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 東京ベーシック・ドリルを中心に復習を強化する。まずは、診断テストで出来るところと出来ないところを各自が把握できるようにしていく。 日々の授業の時間や放課後の時間に、苦手としたところをタブレット端末のデジタルドリルを使って繰り返し問題を解く機会を設ける。 		
6	国語	<p>調新宿区学力定着度調査の結果では、全体として、正答率が75%をこえ、基礎・活用ともに区平均と全国平均を上回っている。特に、読むことの領域では、正答率が8割を超えており、読みの力が付いているといえる。また、昨年度の課題であった書くことについての領域でも、75%を上回り書く力が付いてきている。言語事項については、区平均と同程度の水準であった。</p> <p>学日常の提出物を見ると、全体的に丁寧に言葉の学習に取り組んでいる。意見発表やスピーチの場面になると、「自分の考えを整理し、組み立てを考えて効果的に話す」ことを難しく感じている様子が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 漢字や言葉の由来、修飾語などの文法などの言語事項について理解が定着するよう指導する必要がある。 自分の考えを分かりやすく伝えるために、話す組み立てを考え、順序よく話す力を伸ばす必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 文法や言葉の成り立ち、由来などの言語事項について、タブレット端末のデジタルドリルを活用して学ぶ時間を週に1回、家庭学習の課題として週に1回程度学ぶ時間を継続的に設定する。 授業内で日常的に辞書を使う環境をつくる。国語以外の学習でもわからない言葉があれば辞書を引かせ、その態度を称賛する。 全校朝会での6年生の挨拶、学級内での日直のスピーチの際に、どんな内容をどの順番で話すかその都度確認する。国語の授業を中心に、考えを話す場面がある時には、話す内容を組み立てることを習慣化させる。 		
	算数	<p>調新宿区学力定着度調査の結果では、全体としての達成率が80%を超えている。特に、「図形」と「変化と関係」の領域では90%の正答率で学習内容を十分に理解していることが分かる。領域別にみると、「分数と小数」「分数のたし算・ひき算」の大小判別や立式に課題が見られる。</p> <p>学日常の提出物や授業の様子から、基礎・基本の習熟度は高い様子が分かる。しかし、自分の考えを説明する場面では、筋道立てて話すことに難しさを感じている児童が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「分数と小数」や「分数のたし算・ひき算」の分野に課題が見られ、特に数の大小を判別したり、場面から正しい式を選んだり立式したりする力を伸ばす必要がある。 基礎、基本の学習をもとにして、相手に自分の考えを筋道立てて説明する力や相手に考えに応答する力を伸ばす必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 6年生の学習内容「分数のかけ算・わり算」の学習の際に、タブレット端末のデジタルドリルを活用して並行して復習を行う。単元終了後も、家庭学習で週1回程度継続して取り組ませ、定着を図る。 昨年度の校内研究の成果である「学び合いの段階的指導」「説明の語型」を継続して活用する。全体の場合だけでなく、ペアで説明し合う時間を多く設け、説明に慣れさせる。 		
音楽	<p>学歌唱や器楽の演奏活動では、どのように音楽を表現するかについて思いや意図はあるが、それを歌やリコーダー、鍵盤ハーモニカで主体的に工夫して表現することに消極的になっている児童が各クラスに数名いる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱やリコーダー、鍵盤ハーモニカは新型コロナ感染予防のためずっとマスクをしている影響もあり、基本的な発声の仕方、腹式呼吸のやり方に自信をもたせる必要がある。 活動場所が限られているので距離をとっての演奏になり、協働的な活動であっても孤独に感じる様子が出ており、合唱や合奏の活動が減っていることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 感染予防対策を毎時間とり、児童の心理的な安心を確保する。 子どもが興味や関心をもつと考えられる教材を発掘し、楽しみながら自信をもって主体的に取り組める場所作りをする。 タブレット端末を活用し、自分の表現を録画して客観的に振り返る機会をつくり、できるようになったことを自分でも確かめることができるようにする。 一体感を体験するために、リズム遊びやボディーパーカッションを常時活動として取り入れていく。 			
図工	<p>学基礎的な作業や、技能面の習熟がどの学年でもまだ十分ではなく、さらなる指導が必要である。</p> <p>学鑑作品を鑑賞する態度は身に付いてきているが、高学年では、お互いの作品から学び合う態度をさらに身に付けさせる必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な知識、技能を身に付けた上での表現力を向上させることが課題である。 お互いの作品を鑑賞する時間を大切にしながら、学び合う意識もたせることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 新しい単元の最初、または、取り扱う道具や表現が変わるたびに、過去の学習を振り返って積み重ね身に付けていくべき基礎学力を養うための指導を行う（確認、振り返り）。 積極的にお互いの作品を見合う時間を確保し、鑑賞の視点を示す。 			
特支	<p>学他者との相互意思疎通が苦手な様子が見られる。</p> <p>学流暢に読んだり、ある程度の速さで書いたり、計算したりすることが苦手な様子が見られる。</p> <p>学集中して活動に取り組んだり、話を聞いたりすることが難しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 語彙の未熟さがあるため、指導が必要である。 場面や状況に合わせた適切な対応力や表現力が十分ではないため、指導が必要である。 相手意識をもたせられるようにしていく必要がある。 語彙、計算、書字の力を高められるよう指導する必要がある。 持続して取り組む力や周囲の環境への対応力を身に付けることが必要であるため、指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 対人スキルに課題がある児童に対しては、前期の間に個別指導の中で、後期には小集団指導の中で意思疎通のために必要な社会適応技能を身に付けられるよう指導する。 読み書きに課題のある児童に対しては、MIMやSTRAW-R等のアセスメントツールを使って評価をしながら、児童の特性を把握し、語彙や書字、計算能力を高める指導を行う。 注意、集中、衝動性に課題がある児童については、前期の間に自己認知と周囲の理解（環境調整等）を高め、後期には児童が置かれた環境の中で集中を保てるように、保護者と連携を図りながら医療機関も視野に入れて指導の計画を立てていく。 			

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト、デジタルドリル等から見える学習の状況

※分量は2ページ以上となってもよい。